

水を大切に

奈良市立富雄第三中学校三年

斎藤 憲吾

紙、花、料理、人間。これらのものは全て水がないと生きられない、作ることができない。つまり、人間が生きていくなかで、水はなくてはならない、生命の源になっていると考えた。このように考えた理由は大きくわけて二つある。

一つ目は、人間の食べものは元を考えると水が関わっているからだ。野菜は植物なので水を与えないと、水分が足りなくなつて枯れてしまう。水やりがあまり必要でない野菜もあるが、良い土にするためには水が必要になるのである。さらに、野菜を洗うときも水が必要になる。牛や豚、鶏など肉を食べる動物は人間と同じで水分をとらないと生きることができない。魚は水があるところでないと呼吸ができなくなってしまう。このように、人間が食べるものは全て水が必須であることが一つ目の理由だ。

二つ目は、人間が使う日用品も水が洗淨や製造で役を担っているからだ。その一例が紙だ。僕は昔からティッシュの箱に「紙は水から」と書いてあるのを不思議に思ったので、どのように使われているのかを調べてみた。まず、紙の原料を作るのに、木材や古紙を煮るときに水を使い、原料を洗うときにも水を使っていることがわかった。紙一トン作るのに水は五十トン必要だ。ティッシュでは清潔感、色紙では鮮やかな色が求められるので、雨水ではなく、きれいな水がいるのだ。紙のように水が製造に不可欠な日用品はもう一つあり、それは半導体だ。半導体製造は製紙よりもさらに純粋な水が大量に必要で、その量一日の工場の製造で数万トンにも及ぶ。どちらも製造に大量の水を使っている。なので、節水にも力を入れている。例えば機械を節水のものに取り換える、地下水を利用する、一度使った水を他の用途で利用する、などがあつた。これらは、日常生活でも取り入れることができると思うた。

一つ目の節水の機械は、シャワーヘッドやトイレなどが作られている。僕の家では三年程前にシャワーヘッドを節水のものに変えた。特に違和感なく、水道代も安くなつた。このように家の機械や家電を変えることは、節約にもなり、環境にも良くなり、まさに一石二鳥である。

二つ目の地下水の利用だが、これはもともと生活用水は地下水の割合が高い。地下水は年間を通してほぼ一定の水温なので、ガス代が抑えられる、ミネラル成分が多いなどのメリットがある。なので、これからも安全に使えるように水質保全に努めたいと思つた。

三つ目の水の再利用は風呂の残り湯を洗濯や洗車に使う、米の研ぎ汁を水やりに使う、水再生システムを家に導入する、などがある。一つ目と二つ目は僕の家でも実践しており、特に米の研ぎ汁は植物の成長を助ける成分が含まれているので、一度やつてみたらどうだろうか。

水は、日常生活で欠かせないものになつてい

て、水を守るために様々な製品が作られている
ことを知った。今日から節水と水質保全を心が
けて生活しようと思う。